

《浴用》

《浴用》

禁忌症・過店症

- 1 暴息症 (治例)
- 急性性疾患 (特に熱のある場合)、活動性の結核、慢性腎臓、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他何れに病状進行中の疾患、妊娠中 (とくに初期と末期)
- 2 通気症 (治例)
- 神経痛、筋痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷入症、胃腸閉塞症、腸閉塞、健康増進、きりきり、やけど、慢性皮膚病
- 3 入浴方法及び注意
- 下記のとおり
- 4 禁煙症・通気症決定年月日
- 平成 15 年 11 月 26 日
- 5 決定者
- 長野県北本保健所長 医師 小林文章

浴用の注意事項

- 1) 温泉療養を始める場合は、最初の入浴日に入浴回数1日あたり1回程度とすること。
その後は1日あたり2回ないし3回までとすること。
- 2) 温泉療養のための必要期間は、おおむね2ないし3週間を満了とすること。
- 3) 温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間経過後に満ち入り（湯入り又は浴槽反応）が現れることがある。「満ち入り」の際は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、満ち入り症状の回復を待つこと。
- 4) 以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。
 - ① 入浴時は、入浴温度により異なるが、約ぬる3分ないし10分程度とし、慣れたにしたがって長延しても可。
 - ② 入浴中、急激な動きの発作はとして一般には安静を守る。
 - ③ 入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗ひない（湯たれを洗いすべし）はたは湯に浸り温泉水で身体を洗うが、温泉成分を試みるのがよい。
 - ④ 入浴後は湯に浸らずに注意して一定時間の安静を守る。
 - ⑤ 次の疾病については、原則として高温浴（42℃以上）を禁忌とする。
 - ア、高度の動脈硬化症
 - イ、高山症
 - ウ、心臓病
 - ⑥ 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。
 - ⑦ 食事の前・直後の入浴は避けることが望ましい。
 - ⑧ 飲酒しての入浴は特に避ける。

《飲 用》

禁忌症・適応症

- 1 禁忌症（軟用）
腎臓病・高血圧症・その他一般にむくみのあるもの
- 2 通定症（軟用）
慢性消化器病・糖尿病・循環系・肝臓病
- 3 軟用方法及び注意
下記のとおり
- 4 禁忌症・通定症決定年月日
平成15年12月1日
- 5 決定者
長野県立本郷保健所長 医師 小林文宗

飲用上の注意事項

- 1 発熱治療に際しては、温泉について専門的な知識を有する医師の指導を受けることが望ましいこと。
- 2 温泉飲用の1回の量は一般に100mlないし200ml程度とし、その一日の量は1,000mlまでとすること。
- 3 小人が飲用する場合は、その飲用量は下表によること。ただし、乳幼児の飲用は避けること。

	大人の服用量を1とした場合の量
15歳から8歳まで	2分の1の量
7歳から5歳まで	3分の1の量

- 4 以上のほか、数用については次の諸点について注意すること。
- (1) 一般には食前30分ないし1時間がよい。
 - (2) 夕食後から就寝前の数用はなるべく避けることが望ましい。

《温泉分析》

溫泉分析書

(1952. 25 ~ 26 号)

- [illegible]

[illegible]

(3) 溶解成分		リチウム (mg/kg)	ナトリウム (mg/kg)
成分			
メタケイ酸	H_2SiO_3	76.4	0.06
メタケイ酸	H_2SiO_4	1.0	0.04
ケイ酸	H_2SiO_4	—	—
ケイ酸	H_2PO_4	—	—
ケイ酸	H_2SiO_4	—	—
溶解成分 計		78.3	0.02

- (5) その他の微量成分
- | 測定項目 | Hg | Pb |
|-------------|---------------|--------------|
| 不検出 | 0.005 mg/kg未満 | 0.01 mg/kg未満 |
| 測定項目 | Cd | Cr |
| 不検出 | 0.005 mg/kg未満 | 0.02 mg/kg未満 |
| 測定項目 | Ak | |
| 0.001 mg/kg | | |
8. 臭気 カルシウム・マグネシウム-炭酸水素塩類 (経腸吸収性低減型)
- 商品名 清血水薬 (臭気抑制剤含有量は10%以下に調整する。)

— 製法 250g 250g 250g
高野菜 250g 250g 250g
高野菜 250g 250g 250g
高野菜 250g 250g 250g